



さかもと

坂本 フジエ 氏

生年月日 大正 13 年 1 月 13 日生

住 所 田辺市朝日ヶ丘

大正 13 年 (1924 年) 1 月 13 日、日高郡清川村 (現みなべ町清川) に生まれる。小学校卒業後、14 歳で故郷を離れ、大阪府内の歯科医師宅で働く。その間に、看護婦教育所、助産婦教育所へ通い、昭和 18 年 (1943 年) に看護婦免許、同 19 年 (1944 年) に助産婦免許をそれぞれ取得する。

昭和 20 年 (1945 年) に帰郷し、郷里近くの西牟婁郡上芳養村 (現田辺市上芳養) において病院で働く傍ら、出張助産師として、依頼を受け、妊婦の家に出向き赤ん坊を取り上げるようになる。昭和 22 年 (1947 年) には、自宅で「坂本助産所」を開く。当時、家庭分娩が一般的であったが、助産師の仕事は確たる保証のない仕事であり、不安定な収入であったものの、そうした中であって、助産師、農家の仕事、二児の母の三役をこなし、そして助産師としての誇りや奉仕の精神でもって村中を駆け回る。

その後、病院での出産が一般的になってくると、氏の助産所での出産を希望する人も出てくるようになったことから、昭和 51 年 (1976 年)、自宅を改修し入院施設を開設、後進の指導も始める。

時代が移り変わり、核家族化や少子化が進むと、出産や育児をめぐる女性たちの不安や悩みが、社会問題として取り沙汰されるようになる中、氏は、助産師とは地域のお母さん方に寄り添うアドバイザーであるとの思いで、優しく、そして温かく母子に接している。近年、医療の介入しない自然分娩や、自宅での分娩を希望する声が増えており、そうした中、氏の助産所では、出産だけでなく、育児相談や思春期相談など、様々な相談等にも対応しており、多くの方が絶え間なく来所するとともに、氏を慕って、たくさんの若い助産師や助産師の卵たちも学びの場として訪れている。

また、市内の高等学校や中学校等において、性教育、命の誕生についての授業を行うなど、将来を担う若い人たちに命の大切さを真摯に伝え続けている。さらに、市内外において、出産や子育てなどに関する講演会等の講師として活躍するとともに、市が実施するパパママ教室の講師のほか、妊産婦訪問事業やこんにちは赤ちゃん事業、産後ケア事業など、長年にわたり教育や保健分野などにおいて幅広く活動している。

一方、日本助産師会和歌山県支部長等の要職を歴任し、優れた指導力を発揮すると

第 42 回 (平成 23 年)

ともに、関係機関との連携、調整に尽力するなど、会員はもとより保健医療関係者をはじめ多くの方々からの信望も厚い。

こうして、氏は、平成 23 年 (2011 年) まで 66 年間の助産師生活で 4,000 人近い出産にかかわり、新しい命の誕生、幼い命の成長に寄り添い続けるとともに、87 歳になった現在も、出産だけでなく、子育て相談や中高生への性教育など、地域における様々な相談役として活躍している。

(略 歴)

昭和 18 年 (1943 年)	私立緒方看護婦教育所卒業 (看護婦免許取得)
昭和 19 年 (1944 年)	私立緒方助産婦教育所卒業 (助産婦免許取得)
昭和 20 年 (1945 年)	大阪市立保健婦学校卒業 (保健婦免許取得)
昭和 21 年 (1946 年)	上芳養村国保組合就職
昭和 22 年 (1947 年)	「坂本助産所」開業 (出張助産師)
昭和 47 年 (1972 年)	榎本産婦人科就職
昭和 51 年 (1976 年)	「坂本助産所」に入院分娩施設を開設
昭和 56 年 (1981 年)	田辺西牟婁助産婦会会長
平成 7 年 (1995 年)	一般社団法人 日本助産師会理事・和歌山県支部長
平成 9 年 (1997 年)	「坂本助産所」を田辺市朝日ヶ丘へ移転
平成 23 年 (2011 年)	『大丈夫やで～ばあちゃん助産師のお産と育児のはなし～』出版

(受賞歴)

平成 9 年 (1997 年)	厚生大臣表彰
平成 11 年 (1999 年)	黄綬褒章

※平成 13 年に「保健婦助産婦看護婦法」が「保健師助産師看護師法」に名称改正されたが、一部当時の名称を使用しています。